

【タイム】 砂防ダム(8:15)→カの沢出合(8:20)→沢終了(8:35)

鬼ヶ煩沢源流

1989年5月27日

L. 一郎

天気晴。砂防ダム上部の二俣を左に入って、鬼ヶ煩沢源流をめざす。さして変化もないまま、遡行を始めて10分程で水は濁れてしまう。カレ沢を進んでゆくと、やがて二俣に分かれるので、左に入り、ヤブをこいで稜線に出る。稜線には踏跡があった。出合から稜線の標高約760mのピークまで約40分である。

(記・)

【タイム】 出合(8:55)→源頭部二俣(9:10)→稜線(9:25)→760mピーク(9:35)

檜沢とその支流イの沢、ロの沢、ハノ沢

1989年5月27日

L.

檜沢橋そばの広場に車をデポ。7:55遡行開始。5分程で最初の支流(イの沢)にであう。まずはここから偵察にかかる。小滝の続く沢である。黒い岩屑がつまつたなかに、1~3mの滝がいくつもかかっている。別に難しい滝はない。15分程遡ると二俣。右俣は4mの滝がかかる。本流は左俣である。こちらは小滝が階段状となっている。スタンス豊富で、楽に越して行く。このあとも小滝が続くが、次第にまばらとなり、水も少なくなる。出合から50分遡った所で源頭となり、遡行終了。樹林帯の中を登って尾根に出る。

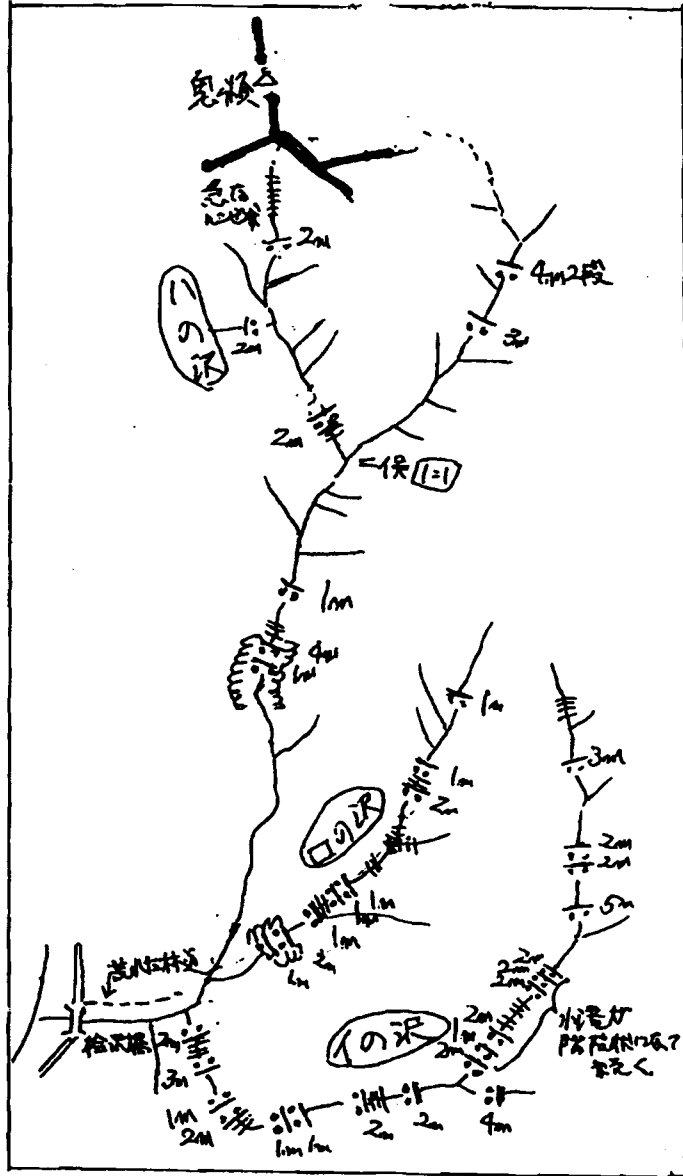
尾根上で小休止したのち、ロの沢(仮称)の下降に移る。沢までは急な斜面の下りであった。遡ってきた沢とは尾根1本隔てただけだが、この沢は平凡である。小滝も少ない。檜沢本流間近でちょっとしたゴルジュが出現したが、ただそれだけであった。

再び檜沢本流の遡行を続ける。明るい河原が続く。水流も多い。「八溝山域の沢の本流筋に滝はないよ」などと話していたら、突然沢筋が暗くなり、ゴルジュ状となって滝が出てきた。4mの滝。ホールド豊富で、楽に直登。今までの明るい沢筋からはとても想像できない、突然の変化であった。しかし、これはと思っ

たのもここだけ。あとはまた平凡な河原に変わってしまった。

10:35二俣。左俣(ハの沢)は下降に使うことにして、先を急ぐ。11:30、源頭となる。左手の小尾根をつめた方が楽そうということで、小尾根をめざす。ところがこの小尾根が大変な曲者。下部こそ杉林の中で楽に登れたが、上部は伐採後に茂った灌木が密生している。八溝あたりでこんなひどいやぶこぎをしたのは初めてである。30分かかってようやく鬼ヶ嶺北東の尾根に出た。

コシアブラの木に登って現在地を確認し、昼食をとる。そのあと尾根を歩いて鬼ヶ嶺のピークへ。鬼ヶ嶺のピークからは北方の視界がひらけ、那須



から安達太良へといくつもの山々が連なっている。霧梯山の整った山容も望める。眼下には棚倉の町がひらけ、展望にはめぐまれている。しかし、登路というものは存在しないようである。3等三角点がある。

鬼ヶ嶺からもとの尾根をもどって、ハの沢(仮称)の下降に移る。尾根の直下から沢は始まったが、ルンゼ状の急峻な沢である。しかし滝はかからない。いくつもの岩屑がつまっているばかりである。登り返せといわれても、とてもその気にならないような急な沢であった。1時間弱の下りで檜沢本流へ。(前

[タイム] 檜沢橋(7:55)→イの沢出合(8:00)→イの沢終了(8:55, 9:05)→ロの沢
終了(9:40)→ハの沢出合(10:35)→檜沢終了(11:30)→尾根(11:55, 12:
15)→鬼ヶ嶺(12:30)→ハの沢下降開始(12:35)→終了(13:30)→檜沢橋
(14:25)

極楽沢左俣 1989年9月9日

極楽沢林道を40分程歩くと、極楽沢左俣の出合。林道は、右俣出合にある雁取橋を渡った先から荒れている。車が入るのは、雁取橋のすぐ先までと考えた方がよい。身支度をして勇躍遡行開始といきたかったのだが、沢の方はまったく平凡なうえ荒れている。伐採時につくられた2~3m幅の作業道など、随所でスタスタにされている。平凡で時々ヤブがかかる中を、それでも20分程遡る。すると、伐採時の材木集積地に出る。ここより上部がまだ若い造林地である。沢はこの造林地の中をなおも奥へと伸びているが、細い流れにすぎなくなっており、遡行終了とする。 (記)

[タイム] 極楽沢林道入口(9:10)→左俣出合(9:50)→左俣終了(10:10)

極楽沢中俣 1989年9月9日

極楽沢左俣の遡行終了後、いったん戻って今度は中俣に入る。林道は中俣に入ってすぐの所で終わっている。右岸一帯がまだ若い造林地である。この沢も荒れている。流木が沢を埋め、土砂が押し出してきている。この沢もまたハズレの沢かと思いつつ遡行を続ける。

やがてナメが出てきた。千枚岩のナメである。やや逆層ぎみ。そのせいかナメといっても沢床はデコボコである。ナメを3つほど越えたらこんどは滝が出てきた。4mナメ滝。スタンスには不自由しない。これはもうけものだと思っていたら、兩岸が狭まって小さな廊下となった。滝は2m程のものがかかるだけだが、ちょっとしたアクセントとなっている。

廊下を越えた先で右岸の造林地が終わり、樹林帯の中に入る。すると水が冷た